

生涯教育研修活動報告書

一般検査研究班

- 1 実施日時： 2021 年 5 月 25 日 19 時 00 分 ～ 20 時 00 分
- 2 会 場： WEB 開催 点数： 基礎 — 10 点
- 3 主 題： これで当直も怖くない！！ ～一般検査のポイント～
①尿沈査検査
②髄液検査
- 4 講 師： ①佐々木 菜緒 (越谷市立病院)
②渡邊 裕樹 (埼玉医科大学総合医療センター)
- 5 協 賛： なし
- 6 参加人数： 会員 189 名 賛助会員 0 名 非会員 0 名
- 7 出席した研究班班員：藤村 和夫 室谷 明子 小関 紀之 柿沼 智史 佐々木 菜緒
渡邊 裕樹 小針 奈穂美 中川 禎己
- 8 研修内容の概要・感想など

佐々木氏の尿沈査検査についての講演では、赤血球に始まり、白血球、上皮細胞、円柱、塩類・結晶までそれぞれ鑑別ポイントや出現機序などを解説して頂いた。赤血球では特に糸球体型赤血球と非糸球体型赤血球の鑑別が重要であり、糸球体型赤血球の鑑別のポイントは個々の赤血球形態だけにとらわれず、全体の赤血球の出現パターンを把握することも重要とこのことであった。糸球体型赤血球の出現機序は、損傷した糸球体基底膜を通過する際の機械的なダメージとネフロン通過時の浸透圧などによる環境の変化によることが考えられている。しかし、糸球体からの出血であっても腎機能が著しく低下している場合は、赤血球形態の変化を認めないこともあるため、赤血球円柱の出現などに注意が必要である。

上皮細胞については、それぞれの細胞の特徴をしっかりと念頭に置き、サイズ、細胞質表面構造、細胞辺縁構造、核などをよく観察し、無染色と必要に応じて S 染色を行い鑑別することが重要である。また、日当直時の検査では、特に尿路感染症の鑑別に白血球、細菌の報告は重要視されるとのことだった。

渡邊氏の髄液検査についての講演では、概論から検査法、生化学検査や症例まで解説して

頂いた。髄液検査の目的は、髄膜炎、脳炎を主体とする神経系疾患や感染症、白血病、悪性腫瘍などの診断と治療評価であり、特に日当直時においては緊急性が高い疾患の診断目的に検査が依頼される。

講演の最後には細菌性髄膜炎の症例が提示され、多型核球優位の細胞数増加、髄液糖の低下、外観の混濁、髄液蛋白と髄液 LDH の増加を認めた。細菌培養では *S.pneumoniae* が検出された。細菌性髄膜炎の診断には髄液検査が重要であり、迅速な結果報告が求められる。成人の場合、致死率は 20%前後で 30%程度に後遺症が見られるとのことであった。

今回の講演は、特に日当直時など不慣れな方が検査する場合や、一般検査の初心者を対象とした検査のポイントについての講演であり、参加者にはとても参考になる内容であった。

提出日 2021 年 6 月 18 日

文責：小関 紀之